

春岡村の伝説

戦争の記憶 その3

《綾瀬川の向こう側、河合小学校の前に米軍機P51が墜落》

戦争末期の1945年7月28日午後0時30分頃、河合村（現岩槻区）平林寺に米軍機P51が不時着しました。

P51は群馬県太田市付近の戦闘で損傷を受けた模様で、低空で飛来し、民家の屋根や立木と接触しながら、河合小学校の南側の野原に不時着しました。操縦士は飛行機から出てくると、竹槍などを持って近づいた住民にピストルで発砲しました。近くの川通小学校や河合小学校に駐屯していた兵士が駆け付けたところ、彼は操縦席内にもどり、いったん降伏の意思を示しましたが、部隊長が近づいていくとまた発砲しました。そのため、日本兵たちは威嚇射撃の後、彼を射殺しました。河合村大字平林寺の共同墓地に埋葬。

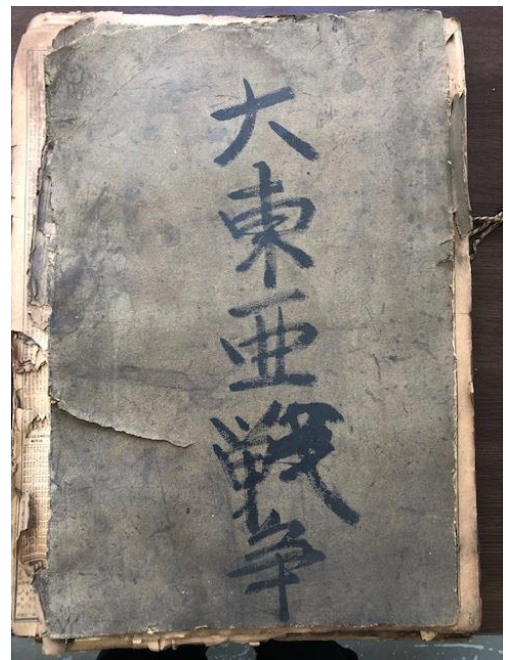
（参考：POW（Prisoner of War＝戦争捕虜）研究会web資料）

- ▶写真は丸ヶ崎新田の農家から出てきた開戦当時の新聞のスクラップの表紙です。墨で黒々と「大東亜戦争」と書かれています。戦後GHQが「大東亜戦争」の使用を禁止し、「太平洋戦争」が使われるようになりました。

▶前号の訂正

B29を迎え撃った日本の戦闘機が堀崎の民家に落ちた時、縁側で昼寝をしていた松本氏（当時18歳）が縁側から転がり落ちたのは、B29が落とした焼夷弾が寝ている松本氏のわずか20センチのところに落ちたためでした。その跡は50年位前まで残っていたそうです。

（松本氏の弟さん談）



（平山由喜）

